
夢と現実

上上 上

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢と現実

【Nコード】

N3483Z

【作者名】

上上上

【あらすじ】

作者、かみじょうの上上上のノンフィクションの話。

いや、完全にノンフィクションというわけでも無くてですね……、フィクション9割ぐらいです。

あと本作では異世界という設定です。嘘です。

あと初投稿なのでなんか色々間違ってるかもしれないんですが、気にするな……！

第一話です、はい、どうも。(前書き)

ある日、上上かみじょうは小説投稿サイトを見つけてきました。
そして、なんだかんだあつて投稿しました。
いや、なんだかんだあつたか!?

内容薄いです。

第一話です、はい、どうも。

……トイレに行きたい。

ヤバイでしょう。ガチで漏れそうなんだけど。

しかもこの感触ー（？）は大だ。

しかし今現在教師が教壇で、赤点以外とったこと無い俺には到底理解出来ない事をだらだらと喋っている。今まで授業中は寝ているので、さして苦でも無かったのだが、襲い来る便意にとっても寝ている場合では無い。気を抜くと漏れる。

授業の残り時間はあと30分ほどもある。

さてどうするか。

……どうしよう。

……あッ！！ 漏れそう……ッ！！

30分も我慢し続けるなんて無理だろうし、挙手をして堂々と「トイレに行きたいです」などと言えないし、しかもそれで帰っていくのが遅かったら「うわっ、上上かみじょうトイレしてるんじゃない!？」なんて噂が流れる事は確実だ。そして本当の事なので否定出来ない。あ、ちなみに上上は俺の名前ね。

多く見積もって我慢出来る時間の残りは3分といった所だろう。

授業が終わるまではその10倍要するという、これいかに!?

……つまり、

・クラスメイトにバレない

・かつ3分いないにトイレに行く

事が出来れば無問題モウマンタイなわけだ。

あ……、無理だ……。

まずクラスメイトにバレないというところから無理だ。例え上手

くこの場を抜け出したとしても、すぐに戻ってくるのは不可能で、つまりは事実上の『詰み』を表していた。

いや、この場を抜け出すことは出来る!!! こりゃあ名案だ!!! 思わず自画自賛してしまう!!!

さあ、その名案を聞きたいかい？

聞きたいんなら、今すぐPCの前で俺に土下座して「教えてください、上上様」と拝むんだな。そうすれば教えない事も無い。

え？ 別に聞きたくない？ マジで？ じゃあ俺ウ コ漏れるじやん？ え？ 別にアンタがウ コ漏れようがそんな事どうでもいい？ マジで？ じゃあ俺言われない。

.....。

完

おいおい、終わっちゃうだろ？ そりゃ困るぜ。

っていつか今の間で作中では2分の時間を使ってしまったんだ。残り時間は1分を切った。どうするよ？

「おい上上、この問題分かるか？」

そして名案が浮かんだ。いや、さっきみたいなPCの前のお前らが土下座したら「嘘だよ」って言うためのダミーの名案じゃなくて、本当に思い浮かんだ名案なんだ。信じてくれ。だから土下座を.....、おっと、もう30秒程しか時間が無いじゃないか。

じゃあ思いついた名案を言うぜ？

「問題が分からなすぎてトイレに行きたいです」

これこそが俺の作戦。名付けて『問題が分からない言い訳にトイレに行きたいです』と思わせての、本当はトイレに行く事こそが真の目的なのだよ、ワトソン君』作戦だ。

さあ、この作戦は上手く発動するの？

「はあ、しょうがないなあ……」

先生は呆れ顔でそう言い、

「とでも言うと思ったか」

と続けた。

「何イ!？」

俺の頬を冷や汗が流れる。実はもうすぐ漏れそうなので流れた冷や汗なのだが、先生は素直にトイレに行かせてくれなかった事に驚いているのだと思っっているようで、気にせずさらに続ける。

「問題が分からなくなつて逃げるんじゃない。ちゃんと問題と向き合つて考えれば、答えは分かるはずだ」

ほう。ぬかしおる。お前がトイレに行かせてくれないからこの便意も解消されないのであつて、そのせいで正常な思考能力が失われているんだ。責任取れ。

その間にもしつかりと時間は流れ、この便意が我慢出来るのも残り10秒程になった。

くっ……………!! ヤバイ……………!! 漏れる……………!!

さあどうするか、この状況を乗り切るには正常な思考能力が必要だよ。返還を要求する、先生。

「さあ、ちゃんと教科書を開いて、問題を解くんだ」

「グッ……………!!」

漏れるまで、後5秒。4、3、2、1。

ぶりっ

瞬間、漂う、異臭。

「ハッ!！」

俺は目を覚ました。どうやらさっきまでののは夢だったようだ。

ふう、よかったよかった。あれが現実だったら俺の社会的地位は、おそらく地に落ちていただろう。元々あったものでは無いけどね。

それにしても、最後のウ　コの臭いは酷かった。あの臭いはかなりリアルで、今でも克明に覚えているっていうか、まだあの臭いがかすかに……てよりかなり、漂ってくるのは、俺がまだ完全に目が覚めていないからだろうか？　それとも……、

俺は布団の中にある俺の下半身を見た。

見た感じ違和感はないが、さっきの異臭が強くなった。

まさか……、

体をひねって自分のパンツの中を覗いた―（本当は美少女のお尻を眺めたいもんだぜ……）。

何だか黒くて汚い物体がケツから出ていた。

続く……かも！！

第一話です、はい、とじま。(後書き)

あとがきだった〜。

え〜マジで〜？

マジで〜。

まだ作品が完結していないのであとがきなんて書けません!!!!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3483z/>

夢と現実

2011年12月11日22時57分発行